

シラバス1

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度で提供されるサービスの内容 ・介護サービス（介護職員から） ・介護保険サービス（利用者から） ・介護資格とキャリアシステム 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なサービスと理解 ・介護保険サービスの理解（居宅・施設） ・介護保険以外のサービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の仕事内容や働く現場の理解 介護職がどのような環境で、どのような形で仕事を行うか理解する。 ・サービス提供者からの仕事の理解 居宅・施設の多様な働く現場の仕事内容 居宅・施設でのサービス提供現場の具体的なイメージ 利用者の立場から各個人別の介護サービス 介護福祉士制度システム、DVD鑑賞 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の仕事について、グループディスカッションを行う
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	(株) 日本医療企画発行 DVD教材
------------	-----------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス2

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の考え方を通じ、人権尊重について考える。 ・利用者の尊厳の概念に対し、きずきを促進する。 ・QOLとノーマライゼーションの概念 ・虐待防止・身体拘束禁止について理解する。 ・人権擁護制度について理解を深める。 ・自立に向け残存能力の活用と個別の支援方法 ・介護予防の理解 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4	1	3	<p><講義内容><通信学習課題の概要等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持 人権尊重の取り組みと基本的人権の保障 尊厳を支える介護の提供 ・QOLの考え方 介護職分野におけるICF QOLの考え方 ・ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 ・虐待防止・身体拘束禁止 自立を妨げる虐待防止・身体拘束禁止について理解し、 問題の発見につなげる。 ・個人の権利を守る制度について 人権擁護制度を理解し、高齢者擁護支援を行う。 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事例検討」から、グループディスカッションを小単位で行う。
② 自立に向けた介護	3	1	2	<p><講義内容><通信学習課題の概要等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 自立支援の理念を踏まえ、現存能力を活用し、利用者が その人らしい生活ができるよう、個別的、継続的に支援 する。 ・介護予防 介護予防を理解し、利用者の生活能力や意欲を引き出し ていく支援法。 自立に向けたDVDを鑑賞する。
③ 人権啓発に係わる基礎知識	2	2	0	<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題を通じ、一人ひとりの利用者と接することができる。 ・人権への取り組み等から、人権啓発を理解する。
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	(株) 日本医療企画発行 DVD教材
------------	--------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。※ 項目ごとに時間数を設定すること。※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス3

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の専門的役割 ・チームケアの必要性（多職種との連携と協働）の意義 ・介護職業倫理感の必要性 ・介護職員の安全確保とリスクマネジメント ・介護職員の安全衛生面での健康管理 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴の理解 訪問介護と施設介護サービスの違い 利用者を施設で支援する専門的知識 ・介護の専門性 介護職の専門性の意義 介護理念の捉え方 多職種との連携と協働の必要性及びチームケア重要性の理解 ・介護に係わる職種 異なる専門性を持つ多職種の理解 チームアプローチ
② 介護職の職業倫理	2	1	1	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理—職業倫理感の必要性、倫理綱領の説明 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討によるグループワーク
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・介護労働での安全確保 リスクマネジメントの習得 ・事故予防、安全対策 介護職員の事故予防と安全確保、利用者の安全対策 ・感染症対策 感染症の原因と経路、感染症の正しい知識
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の安全対策、感染症予防、健康管理 介護職のこころの健康管理 メンタルヘルスケア、ストレスマネジメント 介護職のからだの健康管理 腰痛予防、手洗い、うがいの励行 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い手順
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス4

指定番号 82

商号又は名称:(株)KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度理念の理解 ・障がい者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3	0.5	2.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の創設の背景と目的—創設の背景 ・介護保険制度の動向—介護保険の意義 ・介護保険制度のしくみ—しくみ理解 ・介護保険制度のしくみ—介護報酬、財源の理解。 改正の必要性 ・介護サービスの分類と種類 ・主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設 保健給付以外の事業—地域支援事業、地域包括支援センター 保健福祉事業
② 医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	2.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・介護での医療と福祉の連携 保健医療、福祉、両サービスの説明 居宅、施設、両サービスの医療と福祉の連携 ・介護職と医行為 介護の業務と医行為の説明 ・リハビリテーション リハビリテーションの説明
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者福祉総合制度及び他制度 障がい者自立支援制度の理解、ICF ・障がい者自立支援制度の基本的な構造 障がい者の定義から障がい制度の仕組み ・障がい自立支援制度の仕組みと運営の現状 制度の改正、障がいサービスの種類と内容と サービス内容、支給決定のプロセス、財源
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス5

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのコミュニケーションを通し、良好な人間関係をベースにした信頼関係の構築が肝要であることの認識を促す。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解し、連絡、報告、相談が必要であると、認識・理解を促す。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3	1	2	<p><講義内容><通信学習課題の概要等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 利用者のコミュニケーション能力への配慮 ・コミュニケーションの技法 利用者に応じた技法の習得、バイステックの7原則 ・道具を用いたコミュニケーション 失語症、難聴、視覚障がいに応じたコミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者、家族それぞれの思いを把握する。 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 障がい者とのコミュニケーションの技術 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの高齢者、障がい者を想定したコミュニケーションの取り方の演習 ・個別援助計画書の作成
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3	2	1	<p><講義内容><通信学習課題の概要等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録による情報の共有化 記録の意義・目的 介護に関する記録の種類、個別援助計画書、事故報告書、ヒヤリハット、5W1H ・介護サービスにおける報告、連絡、相談 その意義を理解する ・コミュニケーションを促す環境 ケアカンファレンスの重要性 情報の共有化 サービス担当者会議 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録用紙を利用した記録方法
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス6

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のこころとからだの変化を個人別に理解する重要性を学ぶ ・高齢者の多い疾病の種類と症状や特徴、治療・生活上の留意点や訴えの理解を促す 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> ・老化に伴う心身の変化—老化のメカニズム、寿命、特徴、知的機能の変化 ・老化に伴う日常生活 日常生活への影響、有訴率と通院率、老化現象
② 高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> ・高齢者と健康—老人病、生活習慣病、五大死因 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 ・老化に伴う疾患と生活習慣病の種類と症状
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス7

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の利用者の心理・行動から残された意欲・能力に着目し、その人の世界を理解する。 ・認知症による障がいの理解を学ぶ ・複数の事例検討より、認知症の利用者の介護にでの原則を学ぶ 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	2	1	1	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念 ・残された意欲、能力に着目した認知症ケアの重要性 ・パーソンセンタードケア
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の概念—疾患の理解、その診断法 ・認知症による障がい—症状、原因疾患 ・健康管理の重要性—栄養管理、清潔管理 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（認知症の原因、症状、対応について）
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	0.5	0.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・中核症状、周辺症状、BPSD ・認知症の利用者への対応—コミュニケーションの原則 基本的ケア、生活改善 ・認知症の利用者への対応（その2）—基本的な対応、受容 基本的ケア <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイング（グループディスカッションによる）
④ 家族への支援	1	1	0	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への支援—認知症の受容過程での援助法、事例検討、 家族へのレスパイトの必要性 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討によるディスカッション
(合計時間数)	6	3.5	2.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス 8

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護における障がいの概念と ICF の理解 ・障がいの医学的理解 ・家族への理解、かかわり支援の理解 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	0.5	0.5	0	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの概念と ICF の考え方 ・障がい者の基本理念—ノーマライゼーション 高齢者と障がいの違い <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を使用し、ICF とノーマライゼーション思想から見た障がいの理解を促す
② 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	0.5	1.5	<講義内容><通信学習課題の概要> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人の理解、障がい者の特性 身体、知的、精神障がい、その他の障がい（高次脳機能障がい、発達障がい） <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人の参加制約と公的サービス
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の心理—障がい受容の重要性 ・家族への支援—介護負担の軽減
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。